

なかがわ

広報

2015.9



No.120

- スマート国勢調査！ 2
- 合併10周年記念式典のお知らせ 4
- マイナンバーがはじまります 6
- 町職員の給与・定員管理を紹介します 10
- 第34回ゆりがねマラソン参加者募集 15

おうえんよろしくね!

ゆるキャラグランプリ[®]2015

なかちゃんが登場しています!



こちらから投票できます!



馬頭南保育園

広報 Koho Gallery 展示室

第120回

秋季特別展 没後100年 小林清親展 —新しい時代の息吹と浮世絵の終焉—

川岸に打たれた杭が長い影をのぼす夕暮れ時。空は茜色に染まり、水面は夕日に照らされてきらきらと輝いています。

この作品を描いたのは、「最後の浮世絵師」と呼ばれる小林清親(1847～1915)です。明治期に活躍した絵師で、本図はデビューから間もない明治13年に作成されました。浮世絵、といっても私たちが知っている広重や北斎の浮世絵とは随分趣が違うと思われるのではないのでしょうか。

文明開化が推進された明治初期には、大きく変貌を遂げる東京の風景を、赤や青など明るい色遣いで描いた「開化絵」と呼ばれる浮世絵が次々と出版されました。明治9年1月に出版された清親のデビュー作もその「開化絵」でした。

しかし、それから7ヶ月後、清親はそれまでの浮世絵とは異なる独特な表現の風景画を発表します。太陽光線の微妙なうつろいや、闇夜の提灯のかすかなゆらめき、あたたかなガス燈の光など、「光と影」の表現に注目し、洋画の陰影法を取り入れて描いたのです。この新しい浮世絵の作品群は「光線画」と呼ばれ、人々の注目を集めました。

清親は明治9年から14年までの間に90余図の「東京名所図」シリーズと呼ばれる「光線画」を作成し、人々が慣れ親しんだ昔ながらの風景とともに、新しく変わっていく東京の様子を描き出しました。「千ぼんくい両国橋」もその一枚で、近代化から取り残されたような隅田川の川岸から明治8年に架け替えられた新しい両国橋を望む風景が描かれています。

秋の展覧会では、清親の没後100年を記念し、那珂川町馬頭広重美術館の誇る清親コレクションを一堂に展示します。浮世絵界が衰亡していくなかで最後のきらめきを放った浮世絵師、小林清親の美しい作品をどうぞご堪能下さい。

馬頭広重美術館 主任学芸員 長井裕子



「千ぼんくい両国橋」 小林清親

【会 期】

前期：9月4日(金)～10月12日(月)
後期：10月17日(土)～11月23日(月)

【ミュージアムトーク(展示解説)】

後期 10月17日(土) 午後1時30分～
当館学芸員

【関連講演会】

9月20日(日)午後1時30分～
視聴覚研修室 当館主任学芸員 長井裕子(参加無料)

【休 館 日】

月曜日・祝日の翌日

【開館時間】

午前9時30分より午後5時まで
(但し入館は午後4時30分まで)

【入 館 料】

大 人 700円(630円)
高・大学生 400円(360円)

※()は20名以上の団体料金。

※中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

平成26年度 那珂川町観光写真コンテスト受賞作品



最優秀賞「秋の農作業」 撮影者：釜井 三木さん(宇都宮市)



優秀賞「裏通りの彼岸花」 撮影者：阿部 光雄さん(那須町)

